

話ヲ承ハル

昭和二十年八月十一日 日曜

一九日、御聖斷ハ和平ヲ基礎トスルニト勿論ナルモ議案ハ單ニ「ボツダ」宣言ニ對スル帝國ノ申入レ要領ヲ決定セラレタルニ止ル者部内騒然トシテ何等カノ方途ニ依リ和平ヲ確據セントスル空氣アリ

之カ爲或ハ「テロ」ニ依リ平沼、近衛、岡田、鈴木、迫水、米内、東郷等ヲ葬ラントスル者アリ又陸軍大臣ノ治安維持ノ爲ノ兵力使用權ヲ利用シ實質的「クーデター」ヲ斷行セントスル案アリ諸氏横議漸ク盛ナリ

二、情報局ハ九日御聖斷ニ基キ所要ノ發表ヲ爲サントス陸軍ハ和戰兩用ノ構ヘニ基キ「ソ」聯參戰以來二日未ダ何等ノ意思表示ヲ爲サスニテハ軍ノ士氣ノ崩壞ヲ恐レ飽ク近軍隊ハ任務ニ邁進スヘキ大臣訓示ヲ發セラレ(部内)

0935

3-9

予ハ右發表ヲ「ラダオ」及新聞ヲ通シテ部外ニ發表才  
處置ス

三、然ルニ本件ハ聖旨必謹ニ及スルモノトシテ重大化シ軍事  
課長、軍務局長ヨリ注意ヲ受ケ局長ハ各新聞社  
ヲ歴訪シ發表停止ニ努メタルモ及ハス

四、此ノ日梅津參謀長、豊田軍令部總長、東郷外務大  
臣、平沼樞府議長、鈴木總理ハ交々參内上奏スル  
所アリ

五、井田、畑中大臣ヲ私印ニ訪フ